

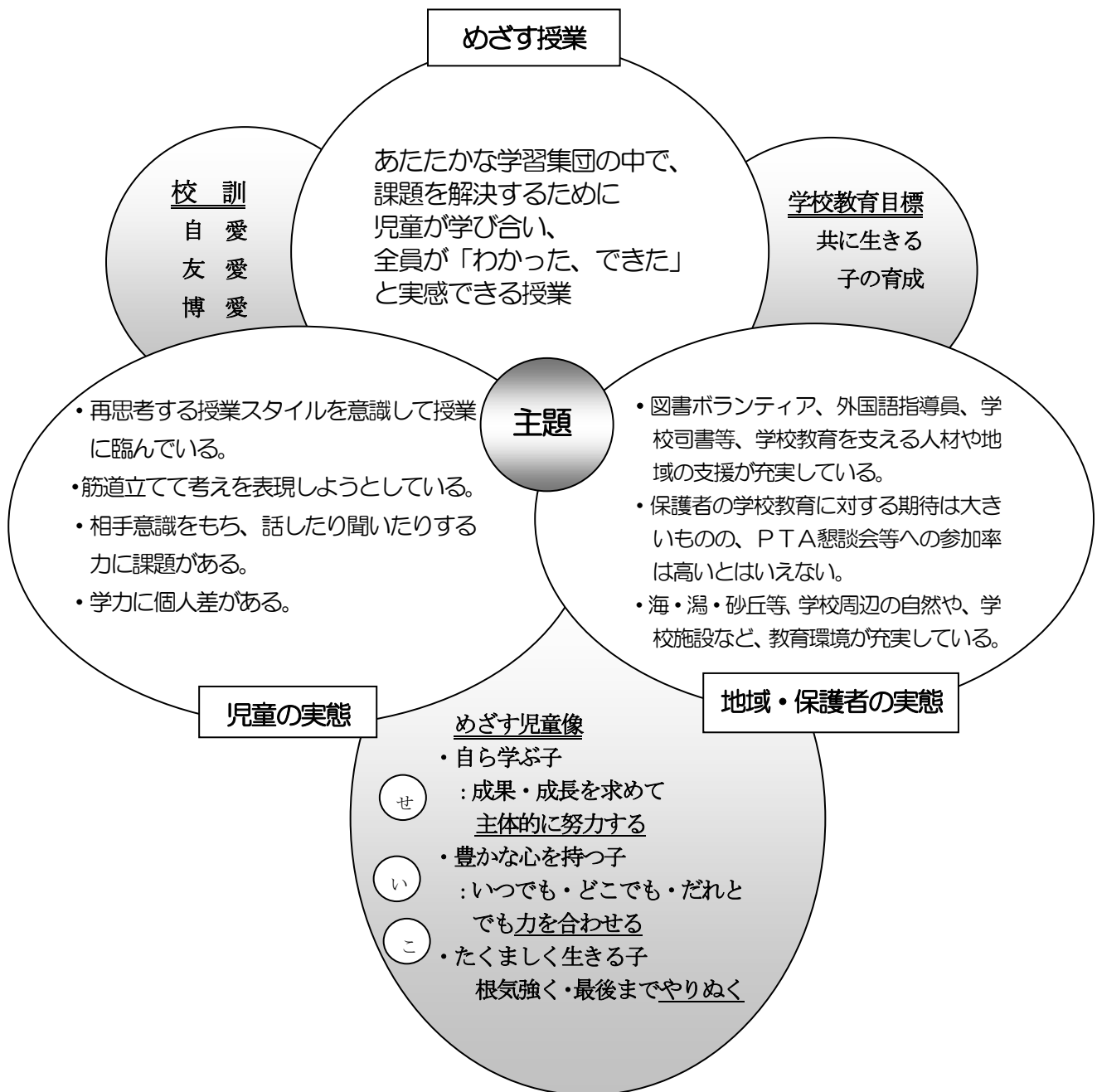
V 現職教育

1. 研究主題

自ら考え、学び合う子をめざして

～「わかった、できた」と実感できる授業づくり～

2. 研究主題・副題設定の理由



本校が考える「自ら考え、学び合う子」とは、

「自ら考える子」…課題を見出し、既習事項やこれまでの経験を活かして、課題の解決や達成に向けて考える子
「学び合う子」…考えたことを表現し合い、認め合うことで、学びを深め、「わかった、できた」と実感できる子

である。このような学びへの姿勢・能力を、これからの時代を生きる子供達一人一人に獲得させたい。

本校では、令和2年度から研究主題を「自ら考え、学び合う子をめざして」とし、副題は、平成30年度から【「わかった、できた」と実感できる授業づくり】として、授業実践を積み重ねてきた。その際、研究の課題を改善する視点として【重点①②③】を掲げ、取り組んできた。

重点①【問題意識が高まる課題づくり】

重点②【根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫】

重点③【「わかった、できた」を実感するための場の設定】

令和3年度と昨年度は【重点②】に焦点化し、具体化してきた。その成果として、以下の点が挙げられる。

◎再思考させる授業スタイルの定着

低学年は「自1」で教えて自2で考えさせる」、中高学年は「自1」で考えさせて自2でその考えを深めさせる」といった授業のスタイルが定着してきた。授業の流れや問いの視点をパターン化することにより、児童が安心して学習に向かう姿が見られるようになってきた。この授業スタイルを構築するために、教師はこの授業で児童にどんな力をつけたいのか、そのためにどんな問いで考えさせるのかを吟味し、週案の授業作りシートに明記してきた。また、授業後にふり返ることによって、本時の課題との整合性や自1から自2、まとめへのつながりを意識して問いの内容を考えられるようになってきた。

◎筋道立てて考えを表現させるための手立ての蓄積

1学期は、授業の中で話し合ったり、ノートに書いたりする際にどんなことが「考え・根拠・理由」になるのかを児童と確認し、「学び合い名人」に書き込んだ。さらに2学期は、児童がそれらを筋道立てて話したり書いたりできるように「3観点の話型」を提示した。これらの活用に加えて、研究授業では、児童に考えや根拠をもたせるための様々な手立てが見られた。既習掲示、ワークシート、写真、イラスト、表情絵、心情円盤、動画、教師作成の問題シート（クロムブック）、模型、現地の取材映像、実体験、児童作成のグラフ、作戦ボード等、児童の実態を踏まえた手立ては、「考えたい、わかるようになりたい」という児童の意欲を喚起していた。これらが功を奏し、児童の中に「考えだけではなく、根拠や理由も言おう」という思いや「根拠は〇〇だから、理由は～」と筋道立てて考える意識が生まれてきた。

◎ICTの活用

再思考の場で児童の考えを深める為、いかにタイムマネジメントをするかが課題であった。今年度は、ICTを活用することにより、授業後半に時間を確保する実践が多く見られた。例えば、自1について予めムーブノートで考えを提出させる、送った問題シートに考えを直接書かせる、児童の考えを一度に把握して共有する、大型画面に映して説明させる等を行うことにより、時間の短縮につながった。

しかし、一方で、次のような課題も浮かび上がってきた。

学び合いの質の向上

研究がすすむにつれて、「児童全員が主体的になっているか」「わかった、できたという実感を児童が本当にもっているか」という疑問が聞かれるようになってきた。一部の児童の発言や、児童と児童ではなく、教師と児童のやりとりで進んでしまう授業が見られたからである。また、現段階の話し合いでは、「分かりました」という反応がほとんどであるが、児童が問い返したり、言い換えしたりして、双方向に学びを深める話し合いを目指したいという声も上がってきた。

そこで今年度は、研究主題・副題は継続し、新たに重点を①学び合いを充実させる指導の工夫、②「わかった、できた」を実感するための場の設定とし、主題に迫っていくこととする。

3. 研究の仮説

授業者が、児童の学び合う姿（言葉や態度等）を具体的に想像し、それを実現するための手立てを講じて実践することで、児童の学び合いの質が向上するであろう。また、児童が、学び合いによって「わかった、できた」を実感できる場を設定することで、友達と学び合うことの良さに気づき、主体的に学ぶ意欲が高まるであろう。

4. 研究の重点と具体的な取組

今年度の研究は、以下の2つの重点を掲げ、取り組む。

重点①【学び合いを充実させる指導の工夫】

重点②【「わかった、できた」を実感するための場の設定】

このうち、学び合いの質の向上を目指し、今年度は重点①に焦点を当てる。

【重点①】 学び合いを充実させる指導の工夫【令和5年度 重点】

研究に先立ち、教師間で「児童の学び合う姿」を確認した。児童が学び合っている時、「はーん」「確かに」（反応）、「もう一回言って」「どういうこと？」（問い返し）、「つまり～」「～ということ？」（言い換え）等の言葉が生まれるだけでなく、頷いたり、傾聴したり、聞きに行ったりするといった姿も見られることを共有した。

どのような時に児童がこのような学び合いをするのか。それは、「分かりたい」「知りたい」「できるようになりたい」という思いをもった時であろう。しかし、思いが高まっても、考えるための土台に乗っていないと、学びに向かうことはできない。また、安心して自分の思いや考えを伝えられる形態も必要だ。さらに、思いや考えをなるべく正確に伝えるために、どのように表現させるかといったことも考えなくてはならない。手立ては多岐にわたると思われるが、『児童の学び合う姿』を生み出す」という共通の目標を中核に据えて、指導の充実を図っていく。

具体的な取組として、まず、日々の授業では、本時における「学び合いのための手立て」を事前に準備し、週案の授業づくりシートに明記する。実践後、その手立てが有効であったかを自己評価し、改善策を記録していく。また、研究授業では、指導案に「学び合いのための手立て」を明記し、授業に臨む。参観者は、「学び合い」が生まれていたか？手立ては有効だったか？といった視点で授業を参観し、整理会で話し合う。これらの取組を通して見えてきた成果と課題をタイムリーに全体共有することで、有効な方策を積み上げていきたい。尚、これまでの研究で定着してきた再思考させる授業スタイルは今後も継続していく。また、筋道立てて考えを表現させる手立ても、引き続き活用していく。

【重点②】「わかった、できた」を実感するための場の設定

友達と学び合った後、児童が、学んだことを生かして、自分一人でも問題解決できるようになることが必要である。その際、児童が、「友達と学んだからわかった、できた」と学び合いによる自分の変容を実感できることを目指していく。そのために授業では、適用問題に取り組んだり、まとめやふり返りを書く場を設定する。（本時の終末だけでなく、単元の終末であることも考えられる）教師は、児童の学習状況を評価するとともに、学び合いの様子も把握し、授業の展開や児童の支援に生かしていく。

5. 学力・学習を支える基盤、指導改善を進める体制をつくるための具体的取組

(1) 基礎的な学力・表現力の向上・定着を図る

① 朝学習を活用し、基礎学力の定着・習熟、課題の克服を図る

- ・8:10～8:25の15分間、担任の指導のもと、取り組む
- ・学習課題に取り組んだ後は、速やかに解答・解説をし、フィードバックを行う

| 曜日 | | 内 容 |
|----|------------------------------|---|
| 月 | 読 書 | ・読書 |
| 火 | 国語・算数 | 基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量） ・繰り返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題 ・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施 （国語）漢字、ローマ字、ことわざ、四字熟語、作文、視写 など （算数）四則計算、比例数直線図にまとめる、作図 など 活用力向上のための課題 （学力向上プログラム、各学力調査過去問題等を活用） |
| 水 | 国語・算数 理科・社会 | 弱点補強問題 （学力向上プログラム、各学力調査過去問題、スマートスクールネット等を 活用） 基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量） ・繰り返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題 ・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施 条件作文（月2回） |
| 木 | 読 書 | ・読書 ・ALT、外国語指導教員による外国語の絵本や国際理解の本の読み聞かせ ・読書ボランティアの方や教員による本の読み聞かせ |
| 金 | 英語 （偶数週） GIGA （奇数週） | ・外国語活動、外国語科での授業でのアクティビティ、チャンツの復習など ・エンカウンター要素を含んだ外国語でのゲーム活動 ・使い方指導、ローマ字打ち、プログラミング ・ドリルパーク、調べ学習など |

② 家庭との連携を深め、よりよい家庭学習習慣の定着を図る

- ・10分×学年（低学年は20分）の学習時間の定着を目指し、学習時間に見合う課題を工夫
- ・家庭学習・計算・漢字ステップアップ週間の設定
漢字（各学期1回）、計算（1・2学期 各1回）、それぞれ1週間ずつ全校一斉に設定
新出漢字の書き取り、基礎的な四則計算の繰り返し学習
1週間の家庭学習取組時間を記録して可視化
- ・学習日より「CATCHBALL」など家庭学習の参考になる資料の発行
- ・家庭学習の主体性を高め、学力の向上を図るための「自学ノート」指導の充実

③ 読書活動の充実を図る

- ・朝読書（毎週月曜・木曜）の設定
- ・図書室イベントの開催
- ・地域ボランティアによる「お話会」、外国語による読み聞かせ「イングリッシュ・タイム」
- ・家庭読書の日の設定（毎月23日のいしかわ学校読書の日、長期休業中の家族読書）

④ 弱点克服の取組を実施

- ・重点項目（評価規準に赤字で掲載）を学年会等で事前に確認し、教師用教科書（朱書き）に付箋を貼る。
（弱点ポイント、苦手な問題の番号等書き込む）授業で実践し、定着を図る。
- ・朝学習での計画的なプリント学習
弱点の補強、特に重要な学習内容の繰り返し学習、学力調査問題の活用
- ・到達目標に達していない児童への個別指導や補充授業（放課後「さよならタイム」・長期休業中 等）

⑤ノート指導の充実

- ・ノートの書き方についての全校共通指導
- ・より良いノート作りのためのノート掲示

(2) 教師の指導力の向上を図る

①授業研究の実施

- ・研究授業には外部講師を招聘。研究の重点を中心に協議を行う
- ・授業整理会後の成果と課題を終礼等で即共有し、明確になったことを共通実践に生かす
- ・日常的な授業研究を進められるよう「授業づくりシート」を用いて、研究の重点を意識して取り組む
- ・学期に一回以上相互授業参観週間を設定する

②校内職員研修の実施

- ・全職員が参加し、組織的に実施
(研究の重点の取組を紹介し合う、研修の成果を報告する、分析交流 など)

(3) よりよい実践を積み重ねていくための検証方法

検証問題や児童の姿、アンケート等などを活用して検証を行い、その結果をもとに、様々な取組や研究推進体制の改善を図る

① 単元末テスト・学力向上プラン検証問題

- ・児童の正答率・解答状況を検証して課題を把握し、改善につなげる
- ・児童の課題を全体共有した上で、学力向上プラン検証問題を選定。学期末の結果を評価し、指導に生かす

②漢字・計算ステップアップ週間

- ・計 算 … 同一問題に取り組ませ、取組の前後での正答率・タイムの変化で検証
- ・漢 字 … 「まとめのテスト」を実施し、正答率で検証

③学校評価、児童・教職員アンケート

- ・研究の重点にかかわる点について項目を設定し、児童・教職員評価の数値の変化で検証

| | |
|------------------------|--|
| 授業づくりシート | 学び合いの姿につなげる手立てや指導の工夫 |
| 重点① (○) 重点② () | 【形態】ペアで説明し合う。まず、自分の考えを説明する。続いて、ペアの考えを説明する。 |
| 5/1 (木) 3限 教科：算数 | 【ふり返り】 △ただノートを読むだけのペアもいた。手立てとして、交流に入る前に相手を意識した説明の仕方のポイントを教える。 |

・週案を出す月曜日に、その週の取り組みについて記入して提出する。(原則週1本)

・【 】内の小見出しは各自で簡潔に書く。

・毎回1つでよい。(2つ以上も可)

今回は重点①と重点②のどちらの手立てや指導の工夫を考えるかを決める。(今年度は重点①に力を入れているのでできるだけ①が望ましい。)

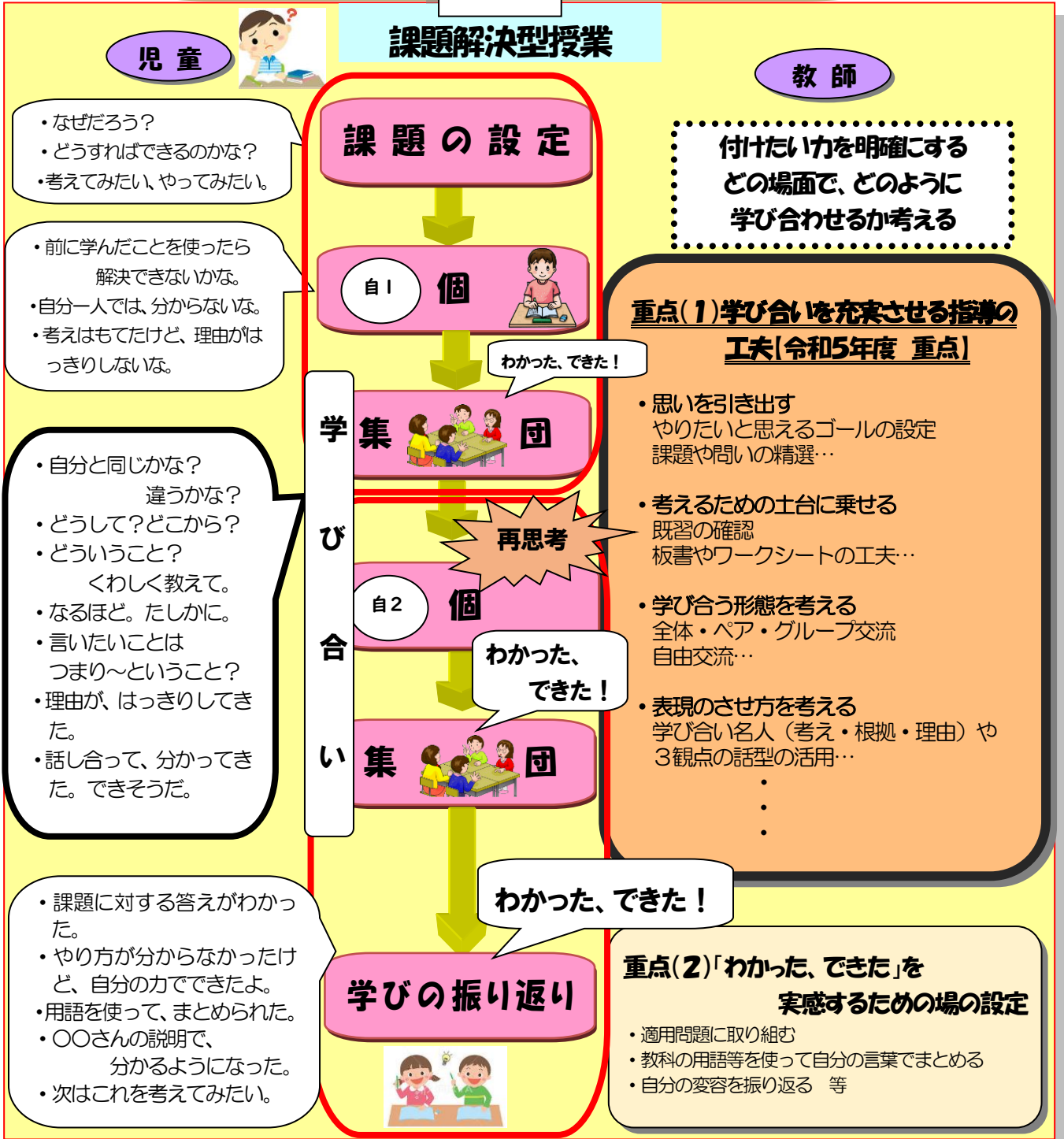
本時の授業をふり返り、上の「学び合いの姿につなげる手立てや指導の工夫」について良かった点(○)や改善点(△)などを簡潔に書く。

週案に綴る授業づくりシート

6. 研究構想図(清湖小授業スタイル)

自ら考え、学び合う子をめざして

学び合う力



基礎基本の学力の定着

学習習慣の育成・基本的な生活習慣

あたたかな学校・学年・学級集団